

# たまねぎレポート【第436号】



令和6年2月27日

阪南青果株式会社

## 社内報

此の冬は、予想された通りの暖冬で春野菜の生育が前進化し、出荷期が早まった。天候は、不順で全国的に気温は、平年に比べ高く、寒暖の差が大きかった。桜の開花も平年より早くなりそうだ。

気象庁の3～5月の3か月予報によると、この期間の平均気温は、東・西日本で平年並みまたは高い確率ともに40%、沖縄・奄美で高い確率50%。降水量は、沖縄・奄美で平年並みまたは多い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

3月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。東・西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側では、

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

4月、北・東日本の日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わる。北・東日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

5月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

### **野菜の市場概況**

建値市場の1月の野菜の販売量は、193,673トン前年比97%(前月比87%)、平均単価はkg¥235前年比97%(前月比98%)。市場別には多少の差はあるものの、総じては前年比で入荷減の単価安となっている。市場別の販売量と平均単価及び前年比は、札幌市場の販売量は前年比95%、平均単価はkg¥208前年比101%。東京市場の販売量は前年比97%、平均単価はkg¥250前年比96%。名古屋市場の販売量は前年比91%、平均単価はkg236前年比100%。大阪本場の販売量は前年比95%、平均単価はkg¥229前年比97%。福岡市場の販売量は前年比106%、平均単価はkg¥176前年比93%となっている。

建値市場(拠点市場)の1月の玉葱の販売量は20,613トンで前年比90%(前月比91%)、平均単価はkg¥181前年比155%(前月比110%)となっている。特に、北海物の市況は10月後半～11月後半まで続伸したことで、高値悩みで消費が伴わず、12月市況は頭打ちとなり、年明け相場

は軟化傾向となった。また、流通段階の在庫が増加し、販売環境は予想以上に厳しくなった。市場別の販売量と単価は、札幌市場の販売量は2,482トン前年比81%、平均単価はkg¥146前年比162%。東京市場の販売量は7,866トン前年比90%、平均単価はkg¥201前年比159%。名古屋市場の販売量は4,673トン前年比90%、平均単価はkg¥171前年比150%。大阪本場の販売量は3,786トン前年比92%、平均単価はkg¥171前年比150%。福岡市場の販売量は1,806トン前年比104%、平均単価はkg¥179前年比149%となっている。

東京都中央卸売市場の1月の野菜の入荷量は、107,259トン前比97%、前月比(89%)。秋冬野菜の入荷は、夏の猛暑の後遺症から回復基調となったが、1月は前年比、前月比ともに減少した。(旬別の前年比では上旬が7%減、中旬が9%増、下旬が12%減で月間では3%減)。平均価格はkg¥250前年比96%(旬別では上旬がkg¥267前年比91%、中旬が¥240前年比100%、下旬が¥249前年比98%)となっている。主要15品目で入荷量が前年比増の品目は、生シイタケが前年比105%、パレイシヨが103%、キャベツとピーマンが101%など6品目。前年比減の品目は、ネギが前年比84%、サトイモが85%、タマネギが90%、ニンジンが91%、ハクサイが93%、など9品目。価格が前年比高の品目は、タマネギがkg¥201で前年比159%、ネギがkg321で122%、サトイモがkg¥374で120%、ハクサイがkg¥56で105%、など5品目。前年比安の品目は、ダイコンがkg¥76で前年比77%、キャベツがkg¥76で78%、ホウレンソウがkg465で82%、ピーマンがkg¥627で85%、トマトがkg¥308で88%など10品目となっている。

## 東京都中央卸売市場の1月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	107,259	96.8	88.9	250	96.1	97.3
た ま ね ぎ	7,866	90.2	110.0	201	158.5	104.7
キ ャ ベ ツ	13,736	101.3	101.1	76	77.8	96.2
は く さ い	12,166	92.9	80.8	56	105.4	127.3
だ い こ ん	9,564	93.0	87.9	76	77.2	108.6
に ん じ ん	5,993	90.7	72.6	118	102.6	85.5
ば れ い し ょ	7,091	102.6	94.0	132	98.1	110.9
レ タ ス	6,229	95.8	98.8	236	89.5	99.6
ね ぎ	4,627	84.4	83.9	321	121.5	86.3
ト マ ト	4,891	96.6	104.6	308	87.7	74.2
き ゆ う り	4,159	100.1	102.0	476	93.6	107.7
か ぼ ち ゃ	1,424	118.5	65.8	205	61.7	79.5
な が い も	522	90.7	88.2	367	104.6	81.9
れ ん こ ん	857	92.0	60.8	313	107.1	87.4
に ん に く	155	77.4	79.1	1,042	123.4	100.6

### 玉葱の概況

#### 需要(市場)の動き

##### 東京市場

東京都中央卸売市場の1月の玉葱の入荷販売量は7,866トン、前年比90%(前月比110%)、主力は北海物で、北海物の販売量は5,900トン前年比76%、占有率は75%で前年比14ポイントダウン。静岡物は1,569トン前年比249%、占有率20%前年比12ポイントアップ。中国物は322トン

前年比254%、占有率は4%で前年比2ポイントアップ。総平均単価はkg  
¥201前年比159%(前月比105%)。産地別では、北海物はkg¥192  
前年比175%(前月比98%)。静岡物はkg¥249前年比87%。中國物は  
kg¥126前年比86%。数量的には、北海物が大幅減、静岡・中國が大幅  
増。价格的には北海物が大幅高で、静岡、中國物は大幅安となっている。

2月に入ってから、北海物の荷動きは鈍化傾向で、JA系統では2月出  
荷分から1ケース¥200の値下げを通告してきたが、いずれの卸や仲卸も、  
2月以前の発送分の手持ち在庫が多く、今迄の損失が薄まる程度で荷動き  
に変化は見られなかった。2月に入り既に人気は新物に移行しており、北海  
物の需要回復には至らなかった。昨今では、新物は品薄高、北海物は品余  
り安の傾向が続いている。府県の新物は静岡物は既にピークを過ぎ、長  
崎・佐賀物の生育は順調だが、雨天・曇天続きで出荷が停滞し品薄高が続  
いている。

2月1日～20日の玉葱販売量は、6,546トン前年比97%(前月比13  
5%)、平均単価はkg¥191前年比139%(前月比94%)。産地別の販売  
量と平均価格は、北海物は数量4,506トン前年比80%、平均単価はkg  
¥180前年比155%。静岡物は数量1,631トン前年比174%、平均単価  
はkg¥226前年比91%。中國物は数量249トン前年比290%、平均単  
価はkg¥130前年比91%。長崎物は数量54トン前年比95%、平均単価  
はkg¥230前年比92%となっている。

### **名古屋市場**

名古屋市中央卸売市場の1月の玉葱販売量は4,673トン前年比90%  
(前月比66%)で前年比、前月比とも大幅減となっている。主力は北海物で

数量は4,028トン前年比83%、占有率は86%で前年比8ポイントダウン。静岡物は515トン前年比214%、占有率11%で前年比6ポイントアップ。愛知物は31トン前年比110%。総平均単価はkg¥171前年比150%(前月比131%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥162前年比157%。静岡物はkg¥251前年比84%。愛知物はkg¥265前年比90%となっている。

2月に入り、府県の新物は静岡に続き地場産地の愛知物が出始めたが、新物は人気良好で品薄高が続いている。静岡物の入荷は例年に比べて多いもののそれ以上の増量は期待薄で欠品回避に苦労した。北海物は、人気離散で荷動き不振で在庫が増えるばかりで、多少の値下げで解決出来そうでなかった。昨今では、人気は新物に移行し、注文が多く、天候不順で入荷少なく苦労している。欠品続きで仲卸の信用を落としている。北海物は荷動き鈍く軟調相場が続いている。更に転送物の割安品の売り込みが多く、値下げ止む無しの状態で頭が痛い。

### 大阪本場

大阪中央卸売市場本場の1月の玉葱の販売量は3,786トン前年比92%(前月比108%)、前年比減、前月比増となっている。産地別の販売量は、北海物が3,035トン前年比86%(前月比104%)、占有率80%、前年比6ポイントダウン。兵庫物が420トン前年比95%(前月比77%)、占有率11%前年と同じ。静岡物が274トン前年比250%、占有率は7%前年比4ポイントアップ。総平均単価はkg¥174前年比151%(前月比102%)で、前年比大幅高、前月比小幅高となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg¥164前年比160%。兵庫物はkg¥225前年比12

1%。静岡物はkg¥264前年比87%となっている。大阪市場は前年比で北海物大幅高、兵庫物追随高、静岡物大幅安となっている。

2月に入り、兵庫の冷蔵物は、品質劣化が目立ち、人気離散でこだわり筋の注文があるものの、良質品は少ない。北海物は、人気離散で依然荷動きは鈍い。ホクレン系統の値下げ通告があるも、変化期待出来ず。新物の静岡物は、引手あまたで品薄高が続いている。愛知、長崎物は入荷少ないものの静岡物の不足カバーで荷動き良好。昨今では、兵庫の冷蔵物は終盤で、新物の入荷が増加傾向。少量ながら選果良く、人気上昇で高値相場が続いている。北海物は人気離散で荷動き鈍化。静岡・長崎の新物は、雨天曇天続きで入荷少なく相場は堅調。

2月1日～20日までの玉葱の販売量は2,944トン前年比88%(前月比139%)。平均単価はkg¥167前年比158%(前月比90%)。産地別の販売量と平均単価は、北海物は2,255トン前年比80%、平均単価はkg¥152前年比143%。静岡物は338トン前年比165%、平均単価はkg¥235前年比88%、兵庫物は270トン前年比105%、平均単価はkg¥189前年比116%となっている。

## 福岡市場

福岡市中央卸売市場の1月の玉葱販売量は、1,806トン前年比104%(前月比104%)で、前年比、前月比とも増となっている。主力は北海物で、販売量は1,502トン前年比96%、占有率83%前年比7ポイントダウン。中国物は226トン前年比218%、占有率13%前年比7ポイントアップ。長崎物は34トン前年比222%。総平均単価はkg¥179前年比149%、前月比98%となっている。産地別の平均単価は北海物がkg¥187前年比1

64%、中國物がkg ¥101前年比81%。長崎物がkg ¥262前年比89%。  
となっている。

2月に入り、長崎物の入荷が始まったが、品質はまずまずだったが、引き合いは今ひとつで、高値販売に努めたものの、他市場に比べ荷動きは今ひとつであった。北海物は相場維持を意図し勉売しているものの、荷動きが鈍く上値少なく下値が多くなりつつある。産地では2月出荷分より、¥200の値下げを通告しているが、その程度では荷動きに変化は起きそうでない。昨今では、長崎の新物に人気が出て引き合いは強いが、天候不順で好天になるまで増えないと言う。。他方、北海物の荷動きが非常に悪く、指示価格と実勢価格では¥1,000もの差が生じ、苦労が絶えない。

2月1日～20日の玉葱の販売量は1,407トン前年比105%(前月比128%)で前年比、前月比とも増加している。平均単価はkg ¥178前年比140%(前月比96%)で前年比大幅高、前月比安となっている。

## 2月26日(月)建値市場の玉葱市況は次の通り

**【札幌市場】** 販売量149トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥3,600～3,500、L大 ¥3,500～2,600、L ¥3,200～2,400、  
M ¥2,200～1,800。

静 岡 10kgDB2L ¥2,200～2,100、L ¥3,000～2,700、M ¥2,600～2,400。。

**【太田市場】** 販売量179トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥4,000～3,000、L大 ¥3,500～2,500、L ¥3,200～2,000、  
M ¥2,800～1,600。

静 岡 10kgDB2L ¥2,000～1,800、L ¥2,600～2,500、M ¥2,300～2,200。



佐 賀10kgDB2L ¥2,000～ L ¥2,600～ M ¥2,500～

愛 知10kgDB2L ¥2,000～1,800、 L ¥2,600～2,500、 M ¥2,300～2,200。

**【名古屋北部市場】** 販売量60トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥4,000～3,800、 L大 ¥3,800～3,000、 L ¥3,400～2,600、  
M ¥3,000 ～2,600。

静 岡10kgDB2L ¥2,000～1,800, L ¥2,600～2,500、 M ¥2,400～2,300。

愛 知10kgDB2L ¥2,000～1,800 L ¥2,600～ 2,500、 M ¥2,400～2,300。

**【大阪本場】** 販売量199トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥4,000～3,600、 L大 ¥3,500～2,700、 L ¥3,000～2,200、  
M ¥2,300～2,000。

兵 庫冷 10kgDB2L ¥1,600～1,400、 L ¥2,000～1,800、 M ¥1,800～1,600、

兵 庫新 10kgDB2L ¥2,400～2,200、 L ¥3,000～2,800、 M ¥2,600～2,500。

静 岡10kgDB2L ¥2,200～2,000、 L ¥3,000～2,500、 M ¥2,600～¥2,300。

長 崎10kgDB2L ¥2,200～2,000、 L ¥2,800～2,600、 M ¥2,400～2,300。

愛 知10kgDB2L ¥ なし L ¥2,500～2,300、 M ¥ なし

**【福岡市場】** 販売量82トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥4,000～3,800、 L大 ¥4,000～3,400、 L ¥3,500～2,800、  
M ¥3,000～2,400。

長 崎10kgDB2L ¥2,200～2,000、 L ¥2,800～2,500、 M ¥2,600～2,400。

## 供給(産地)の動き

秋冬期の主導的品種である北海道産が不作で、出荷の前倒しで年内の出荷進捗率は67%に達し、年明け市況は品薄高となると予想されていたが、予想外の出回りと、終始市況高で高値悩みで需要が伸びず、流通段階の在庫が多く、年明け相場は軟調傾向で推移している。府県の新物は、温暖な気候の影響で生育が前進化し、極早生の出回り量は前年比大幅増となっている。秋冬期の輸入はコスト高から予想された程の伸びはなかったものの前年比20%程度増加している。

### 北海道産地

年明けの需要不振から、JA系統では2月の出荷分から、20kg¥200の値下げを通告したが、市場関係者に高値時の手持ち在庫が多く、早急な値下げ販売は損害が大きく対応に苦慮したと言う。産地では春高を期待して越年在庫をした人も多く、現在の出回り量は予想を上回っている。既に生産者は次シーズンの播種期の最盛期で、高値続きの収入増から栽培意欲が旺盛である。

### 府県産地

府県産の早生物は、静岡産地の出荷はピークを過ぎたが、長崎、佐賀の出荷が最盛期を迎えている。今年は暖冬の影響で生育が順調で前進化しているが、天候不順で雨天曇天か続き、出荷は後ズレしている。球肥大は良好で反収増となっているが、球締りにやや難があり、毎日天気予報を見ながら晴天を待望している。

長崎、佐賀では、現在収穫中の極早生は球肥大が進み、大粒化で反収は5トン程度あると言う。2月は雨天・曇天続きで収穫遅れが心配されてい

る。排水の悪い圃場では肌腐りが散見される。と品質を心配している。

兵庫の淡路島では、2月20日現在の冷蔵物の在庫は37,700ケース(20kgポリコン詰め)で前年比47%。他府県+輸入物の在庫は、210,400ケース前年比79%と報告されている。近年、淡路島では、極早生の栽培も増加傾向で既に走りは関西市場に出荷され好評を得ている。

### 輸入の動き

1月の輸入の速報値は、22,902トン前年比117%。北海物の年内の出荷進捗率が67%に達し、越年出荷量の減少予想が伝わり、需要家は輸入物に関心が深まった。然し、円安によるコスト高や1月市況は高値悩みで需要が伸び悩んだことで、輸入量は予想を下回った。国別では、中国が21,947トン前年比112%、アメリカが468トン前年比975%、オランダが387トン前年はなし、オーストラリアとニュージーランドが各25トンとなっている。

現在の日本向け価格は、20kg. C&F、中国(剥き玉)、\$10,40、ニュージーランド¥2,150の水準である。

### 3月の市況見通し

北海物は在庫減で越年市況の高値が期待されていたが、年明けの需要は低迷し、市況は軟調傾向が続いている。需給バランスの崩れは、隠れた在庫が多かったのか？府県産の早生物の生育が順調で、出回り増となったことなのか？年内の高値市況が需要減の原因なのか？検証することが肝要である。3月後半から4月始めは新物とヒネ物との端境期になるが、その時期に北海物の短期間の高値市況があっても長続きはしない。3月相場は新物高のヒネ物安の展開になりそうだ。昔から足らぬ足らぬは、余るの始まりと言われている。(笹野敏和記)

